

## 2.17『放射線を浴びた X 年後Ⅲ』上映会と高橋博子氏による解説講演会のつどい』の報告

前田耕治

表記映画は、核実験による放射性降下物（フォールアウト）の危険性と被害を訴える、伊東英朗監督による映画シリーズの第 3 作である。大気圏内核実験によるアメリカ本土の放射能汚染の実態が乳歯の調査により暴かれていった経緯を描いたものである。現在、全国各地で自主上映会が開かれている。主催した「核兵器廃絶ネットワーク京都」は昨夏にも京都市内で上映会を開催した。今回、同ネットワークは、さらなる映画拡散の重要性に鑑みて、フォールアウトの研究を進める奈良大学の高橋博子教授の講演会とセットでの開催を試み、市民の間に放射性物質による汚染の理解を広めることにした。高橋氏は、ご自身の体験を交えながらアメリカ政府関係の資料に基づいた講演をされた。以下、講演内容を要約する。

高橋氏は、東京都小金井市で 6 ヶ月の子どもの育児休暇中に、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災と福島原発事故に遭遇した。その際、伊藤監督のインタビューを受け、その様子が「放射線を浴びた X 年後 I」のなかで証言映像として映された。ご自身の研究により 1950 年代、60 年代の核実験の子どもらへの影響を知っていたので、2011 年の福島原発事故によるフォールアウトを恐れたが、放射線の影響は国内では全く報道されなかった。震災翌日の 3 月 12 日に原子力情報資料室のシンポジウムを IWJ で見て、深刻な状況であることを自覚した。ドイツなどで公開された放射性降下物の情報をチェックしながら、屋内で子どもと過ごすようにした。

3 月 15 日に大阪府枚方市に避難し、まずは粉ミルクを大量に購入した。4 月 28 日に、望田幸男先生らが主宰する非核の政府を求める京都の会に出席した。原発事故は核実験と同じ被害をもたらすという講演をした。7 月 3 日には、「ビキニ事件の真実と福島原発被災の今」というイベント開催し、伊藤監督を招きコメントをいただいた。

望田先生は、「季論 21」の「戦後と大震災後」という寄稿で、戦前と戦後の不連続性だけでなく、「大震災後」という言葉も同様に歴史的キータムとして語られるようになるだろう、震災前とは違う時代を作っていかなければならないと述べた。慧眼であった。

アメリカ原子力委員会は、ストロンチウムがカルシウムと同じ化学的性質をもっていて、放射性同位体であるストロンチウム 90 (Sr90) が体内に取り込まれることを知っていた。アメリカの運動に倣って、乳歯を保存しておこうと呼びかけた。ある福島県議会議員も県議会で乳歯保存を主張したが、県からは「反原発になる」と前向きな答弁はなかった。

太平洋での放射性降下物の拡散地図がアメリカ東部の地形に重ねられた政府資料を示しながら、米政府内では核戦争による影響評価に活用されたことを指摘した。それによれば、フィラデルフィアで屋外にいた場合、半分くらい死亡する、屋内の 1 階にいれば 20% くらい亡くなる。その文書は元々機密扱いであり、まだまだ未公開の文書がある。

ソ連が原子爆弾を開発した翌年の1950年5月11日、アメリカ本土に核攻撃があった場合に民間人をどう守るかの観点で、被ばく線量と症状の関係を示す文書も見つかった。軍事作戦の面から軍大佐の質問が掲載されていた。被ばくした場合どれくらいの人員を戦闘に動員できるのか、病気になるのか、影響を説明するために人体実験をするべきだとの表現もある。医学部長の発言では「すでに十分なデータがある」とされ、それは広島・長崎のデータであった。

1943年に作成された文書では、すでに核兵器を軍事兵器として使うのは妥当であるという認識が共有されていた。広島、長崎の2つの原爆による被害は米国にとって重要なデータであり、そのユニークな機会は次の大戦まで得られないとある。

コダック社は、核実験による自社のフィルム商品の被害に端を発して独自に調査を開始した。1949年ごろからは、政府が共同研究として放射性降下物を吸着させるサンプリング調査を開始した。原子力委員会と空軍はプロジェクトサンシャインと称するSr90の拡散の調査を行った。プロジェクトの4.1項には重篤なβ線とγ線の生物に対する影響研究があり、マーシャル諸島の住民に対する機密調査が行われた。それは、軍需研究として「検査はされるが、治療はしない」方針で行われ、ABCCによる広島の調査と同じであった。「黒い雨」はアメリカでは「影響なし」が公式見解だが、軍事調査では「影響ある」を前提にしている。

アイゼンハット博士が第5福龍丸の被曝調査に来日し、1954年には放射能利用の日米共同の会議が開催された。1957年にABCCを通じて、広島の被害者の人骨が送られてSr90が分析された。同様に、全米、世界的な調査が行われ、とくに小さな子どもの骨が求められ、子どもへの影響が大きいことが分かっていた。

映画では、ルイーズ・ライス女史に電話をして乳歯調査を評価したケネディ大統領であったが、ベトナム戦争のきっかけを作り泥沼化させ南ベトナムの緊張を高めた。枯葉剤の使用も許可した。一方で、キューバ危機の回避や部分的核実験禁止条約の成立に貢献した。

もう一つ重要な事実として、国立図書館での人体実験の調査で、ケネディ大統領が人体実験についての調査を進めたことが判明した。大統領の基本的スタンスは軍事研究であり、医学研究、子どものための研究とは対立することを強調したい。

以 上